

令和7年度 岡山県立邑久高等学校 評価書 ～学校経営目標とその目標を達成するための具体的取組～

Ⅰ 学力向上…学習習慣の確立と「わかる」授業づくりへの工夫

学校経営目標	担当課等	重点目標	取組方法	達成基準	自己評価	評価	自己評価	評価	学校関係者評価		
					達成状況(中間)	A=全て達成 B=全てのうち半数程度達成 C=Bに達しない	達成状況(最終)	A=全て達成 B=全てのうち半数程度達成 C=Bに達しない	結果の分析及び改善方策	評価の妥当性	改善方策の適切さ
Ⅰ	教務課	生徒の実情に合ったわかる授業の実現に向けて、「凡事徹底+」運動を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「凡事徹底+」の教室掲示、教科担当者、年次教員、各種委員会による声掛けて生徒の意識高揚を図る。 ・調査前や検定前の補習を学年、教科と協力し実施する。 ・中学校の学び直しを実施することで、基礎学力の底上げを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒授業アンケートにおける「凡事徹底+」の項目について肯定的な意見が90%以上。(昨年90%) ②R7入学生の1年2回スタディサポートのGTZにおけるDゾーンの割合が普通科35%以下、生活ビジネス科60%以下(R6普31%生ビ59% R5 普39%生ビ77%) 	<ul style="list-style-type: none"> ①「凡事徹底+」は教室に掲示し、4月6月に徹底の呼びかけを行った。HR委員と美化委員の重点項目にもなっている。5月の授業アンケートについて肯定的な意見が90%あったため、この状態を維持していきたい。 ②R7入学生の1年2回スタディサポートのGTZにおけるDゾーンの割合が普通科8%、生活ビジネス科55%と目標を達成できた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ①11月の授業公開週間に凡事徹底のチェックをもらった。11月の授業アンケートについて肯定的な意見が90%以上を維持できた。 ②R7入学生の1年11月進研模試のGTZにおけるDゾーンの割合が普通科7.5%、国公立大合格ラインのBゾーン以上の割合が20%(生活ビジネス科は進学希望者のみの受験)となっている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ①凡事徹底の呼びかけについては教員だけでなく、HR委員や美化委員など生徒のほうからも呼びかけができたのが良かった。肯定的な意見が高水準で維持できているのでどのような意識の変容があったかなど質の向上につなげていきたい。 ②1年次を中心にきめ細かな指導を行い、順調にDゾーンが減少しBゾーンが増えてきている。 	妥当	適切
	学力向上委員会	生徒の学習習慣の確立を目指し、授業や課題の工夫をする。生徒の実情にあった授業を研究し授業改善につなげる。	<ul style="list-style-type: none"> ・邑久高学びのスタンダードを作成する。 ・年2回(5月、11月)の生徒授業アンケートを実施し、生徒の行動変容を調べる。 ・年2回(6月、11月)授業公開週間を設定し邑久高学びのスタンダードについて相互チェックを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①授業アンケートの設定課題が学びのスタンダードによる教員が70%以上。 ②年間の授業見学の報告数を70件(校内外)以上。(昨年度65件) ③授業アンケートにおける定期考査・検定に向けた学習について「よくあてはまる」が50%以上。(昨年度42%) 	<ul style="list-style-type: none"> ①5月に生徒授業アンケートを実施した。それぞれの担当教科でアンケートを実施し、11月までの目標を設定する。11月の結果からどのような変容があったかを確認する。 ②6月に授業公開週間を実施。おすすめ授業の一覧を掲載した「授業公開通信」を2回発行した。授業見学の報告は29件であった。 ③学校自己評価アンケートは11月実施予定。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ①11月の授業アンケートの結果から授業改善が見られた教員の割合昨年程度であったが、学びのスタンダードが明記されているものは少なく課題の残る結果であった。 ②11月に授業公開週間を実施。学びのスタンダードを中心に授業を見学してもらい、6月と合わせて46件の報告があった。 ③学校自己評価アンケート(生徒)における「定期考査や検定に向けて勉強している」の肯定的な意見は83%であり昨年同様であった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ①授業アンケートが有効に活用できなかったのは5月のアンケート後、目標設定のお願いを徹底できていなかったためだと考察する。 ②の報告も昨年に比べると減少しており教員の人数が減少した多忙感も関係しているが、これらの取り組みについてやり方を見直す時期が来ているように感じる。 ③については保護者の肯定的な意見は65%であり感じ方に差を感じる。家庭学習ではなく図書館や放課後補習の時間が多いのかもしれない。 	妥当	適切
	1年次	進路実現に向けた学習習慣の確立を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・1人1台端末を活用した取り組みや授業改善を推進する。 ・授業デザインを工夫し、生徒が「わかる」授業、主体的に取り組む授業の実践を推進する。 ・自己管理能力の育成と、凡事徹底+、課題提出を年間を通して徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校自己評価アンケート(生徒)の「邑久高校の教員は、クロムブック、プロジェクトを活用するなど、教え方の工夫をしている」の肯定的回答(1年次)が90%以上。(昨年度100%) ②道徳意識アンケートの「自主自律」の肯定的回答(1年次)が90%以上で推移する。(昨年度92.8%) 「理想の実現」の肯定的回答(1年次)が85%以上で推移する。(昨年度82.9%) ③年次独自のアンケートを実施し、個々の生徒の状況の把握に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校自己評価アンケート(生徒)は11月に実施予定。 ②道徳意識アンケート(1年次5月)の「自主自律」の肯定的回答が90.8%、「理想の実現」の肯定的回答が79.0%であった。「理想の実現」について5月の段階では将来のことをまだ十分考えられていなかった点が数字に影響していると考えられる。5月以降大学訪問をはじめ進路学習の機会を設け取り組んでいるため、2回目(1年次1月に予定)の推移を確認したい。 ③年次独自の学校生活アンケートを1学期に1回、2学期は9月後半に実施した。アンケートを活かし生徒理解や状況把握に努めていきたい。 ・進路指導課と連携し、フォームを用いて学習実態調査を実施。4月平日80分、休日99分、第1回考査前平日170分、休日177分、第2回考査前平日178分、休日215分。この学習状況を継続させていきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ①学校自己評価アンケート(生徒)の「邑久高校の教員は、クロムブック、プロジェクトを活用するなど、教え方の工夫をしている」の肯定的回答(1年次)は昨年度と同様に100%であった。 ②道徳意識アンケートの「自主自律」の肯定的回答(1年次12月)が96.3%、「理想の実現」の肯定的回答(1年次12月)が81.8%であった。「理想の実現」について、以前よりは向上しているが、まだまだ自分の将来や理想について悩んでいる生徒が過年度と比較すると多いと捉えている。 ③年次独自のアンケートを各学期に1回ずつ、実施し、学習実態調査もフォームで実施した。支援が必要な生徒や学習時間が十分でない生徒もいるが、全体としては落ち着いた1年を過ごすことができてきた。2年次に向けて、年次で連携をとりながら、できていない部分は粘り強く声掛け、サポートをしていきたい。学習実態調査の結果は次の通り。第3回考査前平日149分、休日207分、第4回考査前平日156分、休日211分。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 1人1台端末を活用した取り組みや授業デザインを工夫するなど授業改善を推進することで、生徒が「わかる」授業、主体的に取り組む授業の実践を目指した。①の結果だけでなく考査前に学校に残って学習する様子や学習実態調査の結果からも、学習習慣の確立を目指した1年次の取り組みとして評価できると捉えている。今後も年次全体で学習に集中して取り組める環境を整えて、学習習慣の確立を維持していきたい。 一方で、②道徳意識アンケートの「理想の実現」(こうすべきという理想の姿を思い描き、実現できるように過らせている。)の項目が当初目標より下回っている。2学期に実施した大学訪問、企業見学や進路希望調査の状況から、実際に進路を真剣に考える中で進路実現のための理想的な学習にまだまだ十分取り組めていないと考えている生徒も含まれている。進路実現に向けて早期に目指す進路を固め、実現に向けて校内外での学習に取り組ませることが大切になる。1年次の3学期や2年次の道徳意識アンケート(5月)までに、結果が向上するように取り組んでいきたい。 	妥当	適切
2年次	進路実現に向け、学校内外の活動を通して、自ら学ぶ姿勢と自己管理能力を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ・1人1台端末を効果的に活用した授業づくりをすすめ、生徒が主体的・協働的に取り組む授業を目指す。 ・「邑久高 学びのスタンダード」を意識し、生徒が「わかる」授業の実践を推進する。 ・年間を通して、凡事徹底+、課題提出を徹底する。 ・担当教員との連携をしながら検定取得への支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校自己評価アンケート(生徒)の「邑久高校の教員は、クロムブック、プロジェクトを活用するなど、教え方の工夫をしている」の肯定的回答(2年次)が95%以上。(昨年1年次100%) ②道徳意識アンケートの「自主自律」の肯定的回答(2年次)が95%以上で推移する。(昨年1年次92.8%) 「理想の実現」の肯定的回答(2年次)が85%以上で推移する。(昨年1年次82.9%) ③学校自己評価アンケート(生徒)の「邑久高校では、落ち着いた雰囲気の中で授業が行われている」の肯定的回答(2年次)が85%以上で推移する。(昨年1年次87.7%) 	<ul style="list-style-type: none"> ①③学校自己評価アンケートは11月実施予定 ②「自主自律」は91.5%、「理想の実現」は80.5%と昨年度より低くなった。進路達成プログラムやセトリー、大学訪問、インターンシップなど様々な体験をする中で、自分自身と向き合う機会が増え、自分の適性についても考えるようになった結果と思われる。これからの進路選択に自信をもってもらえるように、担任・進路指導課とも連携を密にし支援していきたい。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ①学校自己評価アンケート(生徒)の「邑久高校の教員は、クロムブック、プロジェクトを活用するなど、教え方の工夫をしている」の肯定的回答(2年次)が96.5%と目標値を上回った。 ②「自主自律」は91.5%から93.7%、「理想の実現」は80.5%から87.3%と6月アンケートから上昇し、「理想の実現」については目標を達成したが、「自主自律」は目標に達しなかった。 ③学校自己評価アンケート(生徒)の「邑久高校では、落ち着いた雰囲気の中で授業が行われている」の肯定的回答(2年次)が77.4%と昨年度より下がり、目標に達しなかった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ①授業だけではなく、セトリーやLHRのアンケートなども含めてクロムブックを活用した授業が展開されているからと考えられる。先生方が授業の効率化だけではなく、「わかる授業」への取り組みとして実践してくださっているからであり、今後もし使用などを情報共有などをしながら、活用していきたい。 ②③全体としては目標数値に達しなかった。2年次全体が低下しているのではなく、頑張っている生徒と、十分でない生徒の二極化が顕著になっているように見受けられる。3年次の進路実現に向けて、粘り強く継続した取組をしていきたい。 	妥当	適切	

令和7年度 岡山県立邑久高等学校 評価書 ～学校経営目標とその目標を達成するための具体的取組～

2 コミュニケーション能力の向上・・・地域連携教育等による協働的な体験学習の推進

学校経営目標	担当課等	重点目標	取組方法	達成基準	自己評価	評価	自己評価	評価	結果の分析及び改善方針	学校関係者評価	
					達成状況(中間)	A=全て達成 B=全てのうち半数程度達成 C=Bに達しない	達成状況(最終)	A=全て達成 B=全てのうち半数程度達成 C=Bに達しない		評価の妥当性	改善方針の適切さ
2	進路指導課	地域と連携したキャリア教育を推進し、生徒の進路実現を支援する。	・総合的な探究の時間「セトリー」で、各コース・グループの特性に応じて、地域と連携した探究活動を実践する。 ・地域と連携した授業や進路行事を、年間計画の中で、効果的・継続的に実施する。 ・学習や活動の後の振り返りを、キャリアスタディやポートフォリオ、レポートなどで行い、活動の履歴を蓄積することで、進路への結びつきを意識させ、生徒の進路意識を高める。	①セトリーアンケート(2年次)の肯定的回答が「地域への関心」の項目においては90%以上に、「コミュニケーション」の項目においては95%以上になる。もしくはそのうち「とても」の回答が10%以上増加する。(4月時点で「地域への関心」への肯定的回答は普通科86.8%、「とても」42.1%、情報ビジネス87.8%、「とても」38.8%、保育・食物81.3%、「とても」31.3%)である。同様に「コミュニケーション」では、普通科94.7%(28.9%)、情報ビジネス93.9%(42.9%)、保育・食物96.9%(53.1%)である。 ②学校自己評価アンケートで、各行事は「進路を考えるのに役立つ」「地域の人たちと話をしたり活動したりする機会を得ている」について、肯定的な回答が85%以上になる。 ③年度末の3年次生の進路が90%以上決定し、1・2年次生の進路希望調査において、進路志望先が「未定」の割合が10%以下に減少する。	①②のアンケートは今後実施予定。 ①に関連して、1年次普通科は市役所職員への課題聞き取りからSDGsカード制作中、9月に市内3小学校への出前授業実施。1年次生活ビジネス科は地域企業インタビューを実施し、人物図鑑作成。2年次普通科は「瀬戸内市の祭りを受け継ぐ」「瀬戸内市の防災」「アートによる牛窓観光活性化」「ハンセン病」「効果的な教育方法」などについて探究活動を進め、8月に中間発表を行った。2年次情報ビジネスコースは取材ツアーや座談会をもとに「瀬戸内魅力新聞」を作成中。2年次保育・食物コースは特別養護老人ホームせとうちを訪問して交流会で各班がレクリエーションを発表した。3年次普通科では一部の生徒が進路に繋がる個人研究に取り組み、志望理由や活動報告に活かしている。 ②に関連して、1年次ではキャリア形成に向けて自己理解に関する項目を重点的に行っている。6月の進路ガイダンスでは12分野の外部講師を招き、9月には香川大学と山陽学園大学を訪問した。夏期補習でも自己の進路を考える一環として選択制の講座を導入した。2年次では6月に岡山県立大学と中国学園大学を訪問し、体験授業や大学見学を行った。11月に進路ガイダンスと面接講座を予定しており、進路への準備を進めていく。3年次は進路種別で外部講師による指導を受けた。11月にもキャリア講演会を予定。 ③9月末時点で就職は21名中15名内定(1名結果待ち)、専門学校8名合格。大学は総合型の受験が始まっている。今年には特に早期に決定する傾向にある。	B	①活動終了後のセトリーアンケート(2年次)の「地域への関心」の項目において、肯定的回答は、普通科では97.4%、「とても」65.8%、情報ビジネスでは77.7%、「とても」33.3%と減少して目標値に届かなかったが、保育・食物では93.8%、「とても」43.8%と10%以上増加し、90%以上となった。 本校の「コミュニケーション」の項目においては、普通科では97.4%(同71.1%)、情報ビジネスでは96.4%(同46.4%)、保育・食物100%(同68.8%)といずれも95%以上に増加した。 ②学校自己評価アンケートで、「(セトリーや進路講座などは)進路を考えるのに役立っている」における肯定的回答は93.1%、「地域の人たちと話をしたり活動したりする機会を得ている」における肯定的回答は95.7%となり、いずれも85%を上回った。 ③3年次生は12月時点で、国公立大学5名、私立大学23名、短期大学10名、専門学校等38名、就職19名、その他8名、受験予定4名、未定1名で、進路決定率は88%で、今後93%以上となる見込みである。 11月進路希望調査において、1年次未定者・未提出者は9名(8%)、2年次未提出者は2名(2%)で、2年次進学希望者の93%が志望校を記入できている。	A	①情報ビジネスでは、今年度「地域魅力新聞」編集作業の方に時間がかかったため、生徒の地域への関心が高まらなかったと考える。なお、岡山県教育振興基本計画における同様の項目での実績値は令和7年度調査での実績値は66.1%(目標値80.0%)であることから、本校生徒の数値は十分高くはあるが、より良いものになるように、プログラムの改善を行っていく。 また、探究活動において生徒がより主体的に活動できるよう、来年度からTanQ推進室を新設して指導体制を強化し、新たな探究プログラム開発を図っていく予定である。 ②3年次までの進路学習や探究活動が進路実現に結びつくよう、生徒の実態や進路希望に応じた来年度以降の進路計画を立てていく。 ③今年度は7年ぶりに5名以上が国公立大学に合格したこと、生活ビジネス科から初めて2名の国立大学合格者を出すことができた。探究活動の経験や成果が進路希望に結びつくよう、個別の継続研究や教科の個別指導、志望理由書の作成や小論文に注力したことが合格に繋がった。一方で、同様に取り組みながらも合格に至らなかった生徒もいるため、それぞれの事例についての分析と次年度以降への引継を行うことで、今後に活かしたい。	妥当	適切
	広報室	特別入試志願者倍率普通科2.5倍、生活ビジネス科1.5倍を達成する。	・ホームページのブログ、facebook、Instagramによるタイムリーな学校生活の様子の発信を継続的に行う。生徒の表情を見える化できるように、授業や部活動、ボランティア活動など本校の生徒がいきいきと活動する姿を発信する。 ・普通科、生活ビジネス科それぞれの特色を学校説明会(合計6回(校外2回、校内4回))、オープンスクール(2回(7月、10月))、邑久高通信(6回発信)などで分かりやすく伝える。 ・中学校へ訪問して、出前講座、学校説明などで魅力を伝える。 ・学校のメール配信サービスを活用して在校生・保護者に対しても情報発信を行う。	①HPブログ・インスタ・facebook年間230回以上更新。(平日週4回以上) ②邑久高通信を6回(学期に1回)以上発行。(昨年度5回) ③第1回オープンスクール参加人数(中学3年生・2年生・保護者)が300名以上。(昨年度約350名)かつ第2回オープンスクール参加人数が200名を超えている。(昨年度約210名) ④学校自己評価アンケート(生徒、保護者)の「邑久高校はホームページ、SNSを通じて学校の様子を情報発信している。」の肯定的回答が生徒85ポイント以上、保護者75ポイント以上。(昨年度生徒85.4ポイント、保護者75.3ポイント) ⑤12月の一次希望調査で普通科1.2倍、生活ビジネス科1.1倍の志願倍率を超えている。	①HPブログ・インスタ・facebookの更新は9月30日現在120回更新 ②邑久高通信は現在3号まで発行。3号目は、「広報せとうち4月号」に折込み瀬戸内市内に配布。 ③第1回オープンスクールの参加者は、245名(3年193名、2年52名、昨年度265名)。第2回オープンスクールの参加予定者は、148名(昨年度155名) ④学校自己評価アンケートは11月に実施予定。ブログの更新、オープンスクールの参加者は昨年度を若干下回る人数で推移しているが高水準で推移している。このまま志願者倍率に繋がっていきたい。	B	①HPブログ・インスタ・facebookの更新は12月末現在181回更新。 ②邑久高通信は第4号まで発行しており、第6号は「広報せとうち4月号」に折込み瀬戸内市内に配布予定である。 ③第1回オープンスクールの参加者(生徒・保護者)は323名、第2回参加者(生徒・保護者)は197名であった。 ④学校自己評価アンケート(生徒、保護者)の「邑久高校はホームページ、SNSを通じて学校の様子を情報発信している。」の肯定的回答が生徒80.2ポイント、保護者70.3ポイントであった。 ⑤12月の一次希望調査で募集定員に対する倍率は普通科1.1倍、生活ビジネス科1.21倍であった。	A	①～③および⑤の目標については、目標値をほぼ達成できた。オープンスクールの参加者は昨年より若干減少したが、例年と比べると高水準で推移している。⑤志願者倍率は、生活ビジネス科の人数が高く、目標の普通科1.2倍、生活ビジネス科1.1倍の逆になったが志願者数は概ね達成できた。④は目標値に達していなかったものの、肯定的選択群のポイントは評価項目全体で生徒順位2位、保護者順位3位であり高水準をキープしている。今後特別入試の志願者数が確定するが、4年連続1倍を超える見通しである。来年度から新しいHPに更新する予定になっており、より一層生徒の活躍が見える化される予定である。	妥当	適切

令和7年度 岡山県立邑久高等学校 評価書 ～学校経営目標とその目標を達成するための具体的取組～

3 生徒支援の充実…積極的な生徒理解と援助及び生徒の活動の推進

学校経営目標	担当課等	重点目標	取組方法	達成基準	自己評価	評価	自己評価	評価	結果の分析及び改善方針	学校関係者評価	
					達成状況(中間)	A=全て達成 B=全てのうち半数程度達成 C=Bに達しない	達成状況(最終)	A=全て達成 B=全てのうち半数程度達成 C=Bに達しない		評価の妥当性	改善方針の適切さ
3	3年次	生徒が納得する進路を実現する。	<ul style="list-style-type: none"> ・月1度年次会議で個々の生徒の情報を共有するとともに、年次集会や面談などを通して学習意欲の喚起と進路意識の高揚を図る。 ・生徒が目標を持って継続的に学習に取り組めるように学習指導や資格取得支援を行う。 ・地域の方と協働学習をすることで、コミュニケーション能力の育成、地域理解を深める。 ・課題研究・探究活動などを通して、主体的に考える力、動体力やマナー、社会性を育成する。 ・LHR、セトリー、課題研究などを通して、グループ活動などの充実や面接練習などを通して表現力や協働力を育成する。 ・アンケートや面談などを通して積極的な生徒理解と援助を図り、充実した学校生活、そして進路実現に向け、個々の生徒に応じた支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①年次の最終アンケートで進路の満足度について肯定的回答が90%以上。 ②学校自己評価アンケート(生徒)の「進路に関する学習(進路ガイダンス、セトリーや進路講座など)は、進路を考えるのに役立っている」の肯定的回答が90%以上。(昨年度93.3%) ③進路希望(国公立除く)が、2月末時点で90%以上達成できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①②今後実施予定 ③進学希望者は合格を多くもらっている。就職希望者は5名不採用となり二次試験を検討中。筆記試験・面接指導など担任・年次教員・担当教員と連携をとりながら進めていきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ①進路満足度の肯定的回答は93.9%となった。 ②学校自己評価アンケート(生徒)の「進路に関する学習(進路ガイダンス、セトリーや進路講座など)は、進路を考えるのに役立っている」の肯定的回答は86%と目標に達していない。 ③国公立大学5名、私立大学23名、短期大学10名、専門学校等38名、就職19名、その他8名、受験予定4名、未定1名で、進路決定率は88%で、今後93%以上となる見込み。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ①進路については、保護者・教員に相談して決めているが、生徒本人が納得して選択していることが、他の質問項目からも読み取れた。担任・進路指導課との連携がうまく取れた結果だと思われる。 ②学校自己評価アンケート(生徒)の「進路に関する学習(進路ガイダンス、セトリーや進路講座など)は、進路を考えるのに役立っている」の肯定的回答は86%だが、「学校から進路に関する適切な情報を得ている」は91%となっていることから、内容を生徒の実態や進路のタイミングにあっているのか再考する必要がある。 ③については、進学・就職を希望しているが未定のままにならないように、担任・進路指導課と連携を図りながら指導を続けていきたい。 	妥当	適切
	生徒課	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や日常生活の中で緩んでいる生徒に対して、全教員で継続的に声掛け注意を行い、改善を促す。 ・集会やHR活動を通じて、「規範意識」や「礼節の順守」について継続的に呼びかけ、意識改善や定着を図る。 ・登校指導や昼食時の巡回などで「交通マナー」や「挨拶の励行」の啓発を行うとともに、規範意識やマナーの定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校自己評価(生徒)の「邑久高校は、生徒に社会のルールやマナーといった社会で必要な力を養う機会を設けている」の項目で肯定的回答が90%以上。(昨年度93.4%) ②道徳教育アンケート(生徒)の「校則や交通ルールといった法や規則を守って行動している」の項目で「ほとんどできている」の項目で70%以上。(昨年度5月73.5%・1月71.8%) ③道徳教育アンケート(生徒)の「校内や地域で、きちんと挨拶ができている」の項目で肯定的回答が90%以上。(昨年度5月95.5%・1月95.8%) ※学校自己評価アンケートは年一回(11月)、道徳教育アンケートは年2回(5月・1月)実施予定 	<ul style="list-style-type: none"> ①は11月実施予定。 ②5月に実施した、道徳教育アンケート(生徒)の「校則や交通ルールといった法や規則を守って行動している」の項目で肯定的回答が72%。 ③5月に実施した、道徳教育アンケート(生徒)の「校内や地域で、きちんと挨拶ができている」の項目で肯定的回答が94.6%。 道徳アンケートについては、今回高い自己評価の数値が出ているが、更なる規範意識の向上と定着を図るべく、取り組みを継続していきたい。 ※2回目は1月実施予定 	B	<ul style="list-style-type: none"> ①学校自己評価(生徒)の「邑久高校は、生徒に社会のルールやマナーといった社会で必要な力を養う機会を設けている」の項目で肯定的回答が89.5%(昨年度93.4%)。 ②道徳教育アンケート(生徒)の「校則や交通ルールといった法や規則を守って行動している」の項目で「ほとんどできている」の回答が80.9%(5月)、67.6%(1月)。(昨年度5月73.5%・1月71.8%) ③道徳教育アンケート(生徒)の「校内や地域で、きちんと挨拶ができている」の項目で肯定的回答が94.7%(5月)、94.1%(1月)。(昨年度5月95.5%・1月95.8%) 	B	<ul style="list-style-type: none"> 道徳教育アンケートの達成基準はクリアしているが、学校自己評価はやや下回った。達成状況から、自ら校則や交通ルールを守って行動している生徒が増えていることがうかがえるが、その結果、規範意識に対する注意喚起の機会が減っているとも読み取れる。また、あいさつなど礼節の順守についてはほとんどの生徒が定着できるようになっている。昨年に比べると、外部からの苦情も減り、駅周辺や公共の場など、教員の目が届かないところでの問題行動も減少傾向にある。その一方で、一部の生徒の服装の乱れ(主に女子のスカート丈)が顕著になってきており、効果的な手だてを講じていきたい。 	妥当	適切	
	教育相談室	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人の成長援助に視点を据えた活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ①「生活アンケート」で支援が必要な生徒を年次と連携してSC、SSWにつなげる。必要があればケース会議を開く。(アンケート実施後の対応を2週間以内に行う。) ②学校自己評価アンケート(生徒)の「邑久高校の教員は、あなたの悩み事や相談に親切に応じている。」の項目の肯定的回答が95%以上。(昨年度は90%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「生活アンケート」は1学期に実施し、気になる生徒には担任から声掛けを行い、問題の把握・解決に向けた取組を行った。次年度はシャボテンログとどうすみ分けをするか検討が必要。 ・教員研修は5月20日に特別支援教育コーディネーターの網島先生に講師をお願いして、「特別支援の観点を取り入れた授業づくりについて」というテーマで講演をいただいた。29名の参加で実施できた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ①2学期は千町祭前後に人間関係の把握を目的とし、「生活アンケート」を実施した。問題を抱えた生徒には担任が面談し、対応した。 ②学校自己評価アンケート(生徒)の「邑久高校の教員は、あなたの悩み事や相談に親切に応じている。」の項目の肯定的回答は90%で昨年度とほぼ同じであった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ①「生活アンケート」は学年ごとにタイムリーに実施し、学年団を中心に対応できている。次年度から全学年導入されるシャボテンログと合わせて有効に活用したい。 ②アンケート項目の生徒の肯定的回答は90%、保護者は87%、教職員は100%で生徒・保護者への教育相談の周知が必要である。保護者は同項目で昨年度80%から87%となり、「相談室便り」など周知の効果があった。 	妥当	適切	